

【名古屋グランパス】2024Jリーグ新人研修 クラブ運営サポート活動実施レポート

倍井 謙、榊原 杏太、鈴木 陽人、ピサノ アレクサンドレ 幸冬 堀尾

10月5日(土)名古屋市大須商店街にあるオフィシャルグッズショップ「クラブグランパス」にて新人研修が行われました。研修に参加したのは倍井 謙 選手・榊原 杏太 選手・鈴木 陽人 選手・ピサノ アレクサンドレ 幸冬 堀尾 選手の4選手。「クラブグランパス」での接客、レジ対応等、ショップスタッフ業務に挑戦しました。

活動テーマ	クラブ運営の裏側を知る
実施日時	2024年10月05日(土)13:30～14:30 / 15:00～16:00
場所	クラブグランパス(オフィシャルグッズショップ)
関連部署	第2事業部 MD グループ
活動目的	業務を体験し、クラブ運営の一部を知り、これからの活動にいかす
活動内容	ショップスタッフ業務(挨拶、レジ、接客、品出し、ユニフォーム背番号圧着など)
参加選手	倍井謙選手、榊原杏太選手 鈴木陽人選手、ピサノアレクサンドレ幸冬堀尾選手

◎選手のコメント

倍井 謙 選手

自分が育ったクラブで実際にプロになって、このような機会にたくさんの方と触れ合うことができ、とても良い経験になりました。改めて、応援してくれている方の多さに驚いたのと、そのような方々の期待にこたえなければいけないと痛感しました。これからもこのような活動を継続することに加えて、ピッチ内外において今回感じたことなどの経験を活かしていきたいと感じました。

榊原 杏太 選手

数多くのファンサポーターの方と直接コミュニケーションをとり、自分たちが多くの方々に支えられていることを実感しました。レジ業務も初めてでしたが、いい経験になりました。

鈴木 陽人 選手

ユースの頃から社会貢献や地域貢献を意識して過ごしていましたが、プロになってより発信力や影響力をもってホームタウンでこのような活動ができて楽しかったです。身近にサポーターの方々とコミュニケーションがとれて、さらにありがたみを感じました。早くピッチで活躍して恩返しがしたいです。

ピサノ アレクサンドレ 幸冬 堀尾 選手

初めてレジをしてみて最初は覚えることが多く、色々と時間をかけてしまっていたのですが、時間がたつにつれてスムーズに対応することが出来ました。普段支えてもらっているファンサポーターの方々と身近にコミュニケーションをとることもでき、改めてすごく応援してくださっているなということを感じることができました。プレーで恩返しできるように頑張りたいと思いました。



【名古屋グランパス】2024Jリーグ新人研修 シャレン！活動レポート
倍井 謙、榊原 杏太、鈴木 陽人、ピサノ アレクサンドレ 幸冬 堀尾

2024年2月17日(土)、今池商店街で、倍井 謙 選手、榊原 杏太 選手、鈴木 陽人 選手、ピサノ アレクサンドレ 幸冬 堀尾選手が、今池商店街グランパスフラッグ交換イベントのシャレン！活動を行いました。

① 地域・社会課題:街とクラブで地域活性化、人材交流

② 協働者:今池商店街/グランパス SA(サポーター団体/名古屋グランパス

③活動概要や内容、目的

今池商店街にクラブフラッグを掲出していただき地域での盛り上げを商店街とともに実践する一環として、開幕前のフラッグ交換を今池商店街、グランパスのサポーター団体、選手、クラブスタッフで連携して行うことで街とクラブ双方の理解促進とスポーツを活用した街の活性化に向けた機運を高める。

◎選手のコメント

倍井 謙 選手

サポーターの方々と共にフラッグを交換することで、街全体としてグランパスを盛り上げていくことの重要性を感じた。また改めてサポーターの方々とふれ合うことでより一層自分達選手はがんばらなくてはならないという事も感じる事ができた。

榊原 杏太 選手

今池商店街連合会、グランパス SAの方たちと一緒にフラッグの交換をする事で街の方達をより身近に感じることができ、自分の頑張りで皆さんや街を盛り上げるお手伝いになりたいとおもいました。今池商店街の方々が、グランパスを広める活動にとっても前向きかつ協力的に行ってくれていてグランパスというクラブが愛されていることも実感しました。

鈴木 陽人 選手

今池商店街連合会、グランパス SA の地域の方達と一緒にフラッグを交換する事で街の方たちと交流し街の活性化に繋げるお手伝いすることができたと思います。地域の方達とコミュニケーションを多くとり、サッカー以外の街の事、社会の事、地域に対しての知識、見聞を深めることができました。

ピサノ アレクサンドレ 幸冬 堀尾選手

今池商店街の事やサッカーのことなど色々な話ができて、たくさんの方々とフラッグ交換できとてもいい時間になりました。身近で支えてくださる方との交流というのもあり自分たちはプレーで恩返ししなければいけないという思いが強くなりました。

写真提供／名古屋グランパス

